

琉球大学学術リポジトリ

写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (23)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20984

写真や図を中心にみる

琉球の農作物主要病害虫(23)

害虫

クロカメムシ

形態：卵は粟粒ぐらいで壺のような形をし、はじめは青緑色であるがのちには赤褐色になる。葉の基部や葉しょうに産卵される。

幼虫は長だ円形、淡褐色で約8mm。成虫は体長約1cmで、黒く、やや六角形で、堅い外皮をかぶっている。

加害：イネ、ムギ、ヒエ、マコモなどを加害する。成虫、幼虫ともに吸収口を作物の組織の中にさし込んで養分を吸収する。幼虫は若いときはイネの下部に集まって害するが、大きくなると上部や穂に集まる。穂が出てから黄熟期までは、幼虫も成虫も穂首に集まって加害するから白穂になることが多い。沖縄では、とくに北部地区の水田に多く発生する。

防除：

1. BHC乳剤20の400倍液か、水和剤10の200～300倍液を散布する。粉剤は有効成分が3%のものは効果がある。
1. EPN乳剤の1000倍液を散布する。
1. マラソン乳剤の1000倍液を散布する。
1. ダイアジノン乳剤500倍液を散布する。

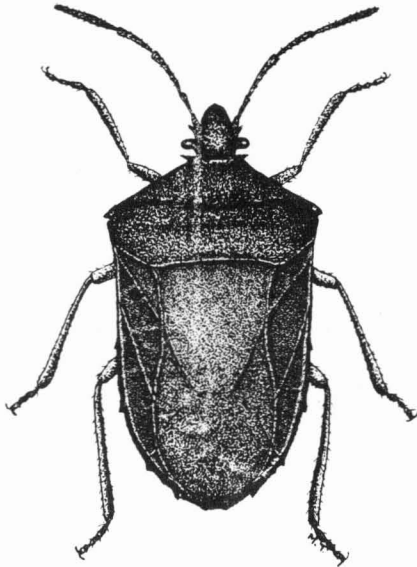
イネカメムシ

形態：成虫はだ円形、全体黄白色に暗褐色の小さな点を密布するので淡褐色にみえる。体長は13mm内外。

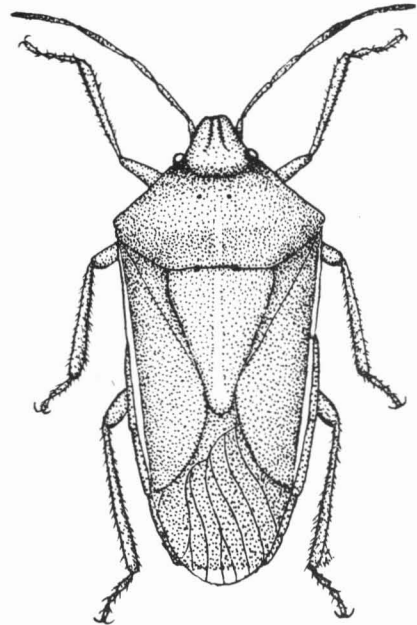
加害：吸収口でイネの汁液を吸う。しばしば大発生することがある。

防除：

1. BHCの300倍液、または粉剤1～3%を散布する。



1



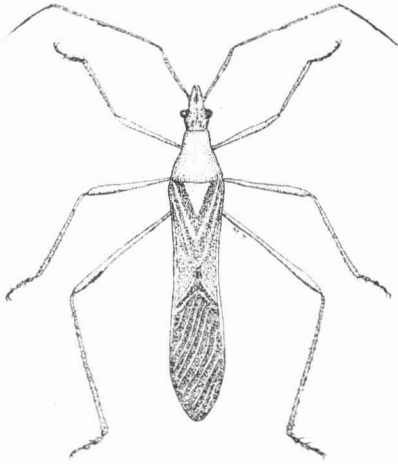
2

クモヘリカメムシ

形態：16mm内外の細長い虫である。全体淡褐色で、側縁は黄白色である。

加害：イネ科の植物を加害する。イネではとくに出穂時に穂に集まって乳汁を吸収する。

防除：イネカメムシと同じ。



3

ツマグロヨコバイ

形態：体の大部分は緑色で、雄は4.5mm雌は6mm内外。雄のはねの末端の三分の一は黒色、雌のし端は褐色。雄の体の下面は黒色、雌のそれは淡黄色。

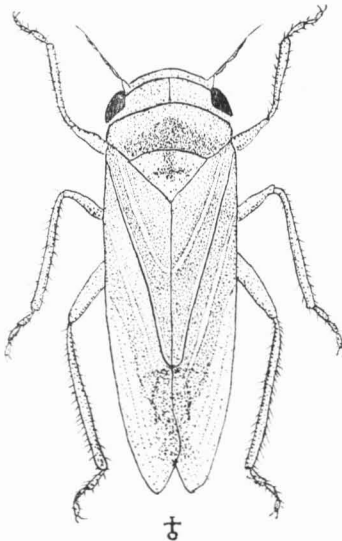
加害：吸収口でイネの汁液を吸収する。イネ萎しゆく病を媒介する。

防除：

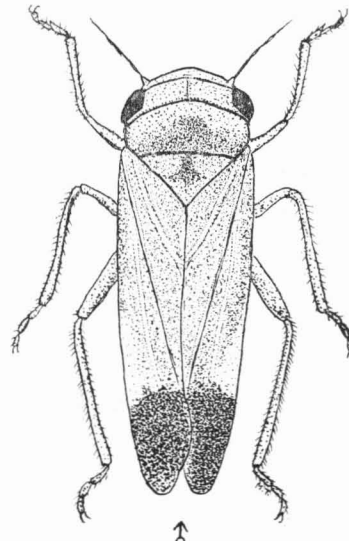
1. BHC乳剤10の2000～3000倍液を散布する。また、粉剤ならば有効成分3%のものを散布する。
1. マラソン乳剤またはE P N乳剤の2000倍液を散布する。
1. ダイアジノン乳剤の1000倍液を散布する。

(田盛正雄)

写真説明 1. クロカメムシ 2. イネカメムシ
3. クモヘリカメムシ 4. ツマグロヨコバイ



♂



♂

4